



令和5年3月20日

第123号

発行 油縄子学区コミュニティ推進会

調査広報部

TEL (38) 7531

<http://www.net1.jway.net/jp/c-yunago/index.html>



初春、穏やかな日和の一月十四日(土)、新型コロナウイルス感染症の影響で見送られていた賀詞交歓会が、三年ぶりに油縄子交流センターにて開催されました。

コロナ感染防止に配慮し簡素化した会場には学区内小・中学校の校長先生、コミュニティ推進会役員の皆さん約四十名が出席されました。

厳粛な中で白玉コミュニティ推進会々長を初めとして各専門部の部長および油縄子小、多賀中の各校長先生による新年のご挨拶がありました。乾杯の後、歓談に移り、会場は一気に和やかな雰囲気になりました。

それぞれのテーブルでは声は抑え気味ではありますが三年振りの開催と云うことも



あつてか会話が弾み、健康・趣味・知人の近況などの話題で大いに盛り上がりました。続いて幸運を呼ぶ抽選会となり、根本副会長の読み上げる番号に一喜一憂。会場は和気藹々の余韻の内に静かに閉会となりました。

さて、時は春分の候、間もなく桜の開花便りとともに新年度が始まります。油縄子学区の皆様方におかれましては、引き続き地域活動等にご協力の程よろしくお願い致します。

(櫻村 均)

油縄子コミュニティ推進会・行事予定(4月~6月)

ステップクラブ	毎月第1・第3月曜日	シルバーリハビリ体操	毎月第2木曜日
はつらつクラブ	毎月第2・第4月曜日	コミュニティ推進会総会	4月16日(日)
おもちゃライブラリー	毎週火曜日(月3回)	運営委員会総会	4月16日(日)
油縄子ふれあい茶話会	毎月第2水曜日	油縄子学区連絡委員会	5月19日(金)
国分ふれあい茶話会	毎月第4火曜日	町内会・自治会連絡会	6月11日(日)

民生委員児童委員の紹介

今年の油縄子学区(地区)の
民児委員及び主任児童委員の
氏名と担当地区を紹介します。

角田 ますみ(新任)

鮎川町一丁目



深谷 裕子

鮎川町二丁目

風間 康子

鮎川町三丁目

四丁目

千葉 恵子

鮎川町五丁目一〜十一番

黒澤 由子

鮎川町五丁目十二〜十六番

六丁目六〜九番

(二〜十号除く)

十、十一番

(二〜六号除く)

結城 弥生(新任)

鮎川町六丁目一〜三番

十八〜二十二番

益子 きよ

鮎川町六丁目四、五番

十一番

(一〜六号)

十二〜十七番

木名瀬 紀子

諏訪町一丁目一〜三番

十一〜十三番

鯨岡 邦水

諏訪町一丁目四〜十番

小泉 玲子

桜川町三丁目三〜十一番

黒澤 由美子

多賀町四丁目四〜六番

五丁目四〜十番

白玉 由子

国分町一〜三丁目

小林 紀子

主任児童委員

福祉部研修会

令和五年二月二十二日に福祉部の研修会を開催しました。

内容は「救急医療と新型コロナウイルス医療体制について」で地域医療対策課の清水課長から詳しくお話を伺いました。

初期救急から救命救急までピラミッド型の医療体制を作り、二十四時間市民を守るために日々働いていることを知り医療従事者の皆様に感謝し

ました。

新型コロナウイルスのワクチン接種率も県平均より高く、感染も少し落ち着いてきているとお話を聞き早く安心できるようになってほしいと思いました。

今回やっと三年ぶりに沢山の理事さんに集まって頂き、研修会が実施できました。

コロナ禍の中でも協力し活動して頂いた皆様に、心よりお礼申し上げます。

(福祉部長 風間 康子)



中学校の避難所開設訓練

日立市防災対策課主催の「中学校を対象とした避難所開設訓練」を二月十三日午後多賀中学校で実施しました。

当コミュニティ推進会では八名の防災関係者が参加し、防災倉庫の備品点検に始まり体育館内に間仕切りテントやダンボールベット、投光器等の搬入設置及び撤去の訓練を市職員とともに実施しました。本番でも迅速に出来るよう集中して作業しました。



尚、災害時活躍が期待される防災士の受講、受験が従来茨城県庁で行われて来ましたが、今年より日立市でも行われるようになりました。

この度当交流センターでは、従来の防災士三名に新たに二名の有資格者を加え、併せて五名となり、一層防災意識の向上を図っております。

(照井 修)

中北ブロック研修会

しばらく新型コロナウイルスの感染症対策のため中止となっておりましたが、中北ブロック研修会が二月十八日に、会瀬交流センターで開催され、助川・中小路・油縄子・成沢・会瀬の各学区の青少年育成部が活動している事業の報告がありました。

各学区とも色々と工夫しながら活動をしているとの事。また、市の助成金などを有効活用しているようでした。

令和五年度は、青少年育成部の皆様を中心に、諸行事が出来ることを期待したいと思います。

(福田 孝)

学校だより

心のハーモニー

油繩子小学校 校長 窪 木 隆 之

この三年間はコロナウイルス対策のため、教育活動の縮小・削減を余儀なくされました。しかし本来の教育活動を徐々に取り戻しつつあります。

十一月二十六日には、三年ぶりの音楽集会を開催しました。開催にあたり感染対策など様々な不安がありました。しかし音楽活動によって子どもたちの心を育てることに主眼をおき、活動の工夫をすることで開催に踏み切りました。

子どもたちは、近年音楽集会を行っていなかったことから、活動にあたっては多くの苦労がありました。学級全体で歌唱のリズムが合わなかったり、ハーモニーのバランスがくずれたりしました。器楽演奏がなかなかうまくいかず、苦労した子もいます。それでも練習を続け、学級全体で向上することができました。

音楽集会本番では、どの子どもどの学級も大きな緊張

がありました。立派な演奏をすることができました。演奏後には、やり切った充実感の笑顔が広がりました。子どもたちは音楽集会を通して学級のみならず力を合わせて音楽をつくることの難しさや楽しさ、充実感を味わうことができました。そしてみんなで力を合わせた心のハーモニーをつくりあげることができました。



音楽演奏会

学区連絡委員会

令和四年度第二回油繩子学区連絡委員会が三月三日(金)に開催されました

本委員会は、ゆなご保育園・諏訪かおる幼稚園・油繩子小学校・多賀中学校・日立特別支援学校・多賀高等学校・鮎川交番・民生委員児童委員・コミュニティ推進会で構成されています。

保育園・小学校・中学校・コミュニティ推進会から令和五年度の事業計画の説明がありました。

交番からは、防犯・交通安全に関する問題の説明がありました。特に防犯アプリ「いばらきポリス」の具体的な話がありました。

尚、諏訪かおる幼稚園・特別支援学校・多賀高等学校につきましては諸事情により欠席となりました。

議題の他に、小学校から新設道路を含めた通学路の見直しを行っているとの事です。コミュニティ推進会からはコロナ禍の三年間のブランクを埋めるため皆様のご協力をお願いがありました。その他にも色々な話題が出

て有意義な情報交換が行われました。(照井 修)



多賀中学校校長



油繩子小学校校長



あゆかわ保育園園長



鮎川交番所長

油繩子歴史散歩

嶋崎 敏

その四 油繩子八幡神社

康平年中(最近は康平元年(一〇五八年)とも)石清水八幡宮から勧請したと伝えられている。

祭神は

誉田別命(ホンダワケノミコト)

息長足日賣命(オキナガタラシヒメノミコト)

日賣神(ヒメノオオカミ)

である。

康平年間には奥州十二年合戦の前半にあたり、父源頼義に従って八幡太郎義家が東国の兵を率いてこの地を通過していった時期である。その義家にあやかり当地に八幡神社を勧請したと考えられる。また、義家の弟新羅三郎義光に繋がる佐竹氏がこの地方を統治し、八幡神社を庇護したので八幡信仰は盛んになったであろう。

その佐竹氏が秋田へ遷され、水戸徳川氏の支配になり、二代光圀の寺社整理の対象になって「潰され」てしまった。

水戸領鎮守神名附(日立郷土博物館蔵)に

次の記載がある。

油繩子村

元禄八年十月十二日御潰し被成候

一、若宮八幡

東福寺

跡地八撰津二御預ヶ也氏子八諏訪村諏

訪明神氏子二可成申渡候

跡地の管理は諏訪の神職多賀野撰津守とし諏訪の氏子に成れという申し渡しである。

水戸藩の方針は一村一社であったが油繩子には神社が無くなってしまった。水戸領内の八幡系の神社の多くは吉田明神などと名を変えて残ったが油繩子は無くなってしまったのである。

光圀が特に八幡神社を潰したり名を変えたりしたのは本地垂迹説を嫌ったのと、佐竹氏の残影を消してしまいたかったとも云われている。表向きは潰されたが諏訪村の住民の好意で諏訪神社の後方に祠を置いて祀りは続けていたという。今に諏訪町三丁目に名を残している。

この神社が何時復活したのかは判らないが普濟寺が無くなった時であろう。普濟寺の僧侶が還俗しこの神社に奉仕したともいわれている。

神社は潰されても社殿は残っていたのである。天保十三年の反別絵図には八幡宮として建物が書かれている。元々神社は北向きで、参道も現在の学園通りに繋がっていたが、明治初年神社を西向きに変え、参道を国道に接続したと云われている。

新国道が開通するまで、旧国道に面した鳥居をくぐると、左側に青年会館があり、祭りの準備やいろいろな会合に用いられていた。



日立特別支援学校

活動のご紹介

日立市特別支援学校の中等部では周辺の店舗や公共施設、学校に花のプランターを届け地域のひととの交流を図っています。

中等部は地域の協力で事業者をゲストティーチャーに招いた授業や職場体験を行い、地域交流に取り組んでいるようです。プランターを届けるのもその一環で、冬と夏に実施。生徒たちが種まきから準備しているとの事。

二月三日、クラスごとに担当する交流先に、学校名が記されたプランターを二輪車で運び手渡しをしていました。



生徒さん達からのプランター手渡し

交流センターでも頂き、大変ありがとうございました。(白玉 敏夫)

編集後記

「三月の花」で検索すると「菜の花・水仙・フリージア・梅・桜」など色々出て来ます。どれも大好きな花です。

そう言えば長いマスク生活で、花の香りを楽しみ癒されたいという事を忘れていたかもしれせん。

よく「マスクの顔しか分からない」と聞きます。卒業の時期、感染対策はもちろん大事ですが、一瞬でもマスクを外して笑顔を見せ合ってほしいなと思います。

まだ人数制限のある行事ばかりですが、昔のように皆様と大勢で楽しく集まれる時が訪れることを強く望んでおります。

(黒澤 優子)

